

# 三重の未来 見据え新風



社外の人と共同研究できる「ミエラボ」を立ち上げた三重化学工業の山川大輔社長（三重県松阪市）



ゑびや商人館は新商品の試験販売拠点を企業に提供する（三重県伊勢市）

## 地場企業が「ラボ」交流呼ぶ

伊勢神宮や熊野古道といった歴史に彩られた風景があり、松尾芭蕉をはじめ偉人も輩出した三重県で、未来を見据えた企業や街の動きが広がってきた。中小企業が相次ぎ新しいビジネスや担い手の人材を育てる研究拠点を開設。経営者の学び直し「リスクリング」も盛んだ。再生可能エネルギーの導入、街歩きを誘う再開発も動き出す。

三重県の中小企業が相次ぎ、他の企業などにも開放する研究拠点「ラボ」を設けている。東京などの大都市とは違って新しい事業の可能性を試せる場所は少ない。各社の未来をひらく場を目指す。

社屋はかつて、スーパーが本社を置いていた建物で、大幅にリニューアルしている。試作スペースはガラス張り、階段状の畳スペースも設けて会話が弾みやすくて工夫した。本社事務所も間仕切りが少なく開放感がある。

観光客向けの食堂を経営するゑびや（三重県伊勢市）は6月、伊勢神宮・内宮への参道沿いに、企業が新商品などを試験販売する拠点「ゑびや商人館」を開いた。週や月単位などで貸し出し、試作品や販売手法を確認できる拠点としている。

「ゑびや商人館」は以前商店だった建物を約8千万円かけて改装。2階建てで、のべ床面積約300平方メートル。1階では松阪牛を使った自社の寿司も販売、他のスペースをテストマーケティングのための有料で貸し出す。

同社の小田島春樹社長は「映像配信の設備やセミナースペースなども設け、飲食・サービス業や店舗のデジタルトランスフォーメーション（DX）について企業が情報を得られる場所にする。ゑびやは日本マイクロソフトのパートナー企業で、リモートワークや研修に使う拠点「マイクロソフトベース伊勢」も館内に用意する。「今後は企業向けのワークショップなども手掛けていきたい」としている。

三重化学工業とゑびやはともに伝統があり、若い経営者が会社をけん引する。山川氏と小田島氏はお互いの面識もある。メーカーと小売り。分野は違うが、それぞれ研究拠点を通じて、地域に新しい風を吹かせようとしている。

先駆ける物流へ

TRANCY  
日本トランスシティ株式会社  
https://www.trancy.co.jp